

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3182
2. 授業担当教員	北爪 克洋、田中 良幸			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1～5：講義日程にて示す通り ・実習報告書の作成 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2. 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3. 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4. 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 1～課題 5 30% 2. 実習報告書 30% <p>講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 		事前学習	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。</p>

		事後学習	実習計画をもとに、30回の実習をより具体的にマネジメントする。
第2回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： アセスメントについて	事前学習	支援過程とアセスメントの方法についてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ソーシャルワークケース記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第3回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて ・帰校指導について説明・理解	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第4回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： インターベンション・結果と評価	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第5回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・他職種連携とチームアプローチについての理解： 実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方についてまとめる（課題1）	事前学習	実習時に実習先で実践されている他食連携について指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題1の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第6回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	課題1についてまとめる。
		事後学習	実習時に課題2の作成に必要な情報について質問等を通じて収集する。
第7回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第8回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・地域社会への働きかけについての理解： 実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる（課題2）	事前学習	実習先の社会資源について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第9回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・クライアントへの援助実践についての理解： クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する（課題3）	事前学習	担当しているケースについて、情報を整理する。また、ソーシャルワークの実践アプローチについて内容を確認する。
		事後学習	課題3の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
		配布物	実習報告書について、ソーシャルワーク実習Ⅱアンケート（Sのみ）
第10回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解： 実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題4）	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題4の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第11回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第12回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
		配布物	実習終了時の諸注意 実習記録提出証明書
第13回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換 ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）： 実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明）	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第14回	・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める： 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題5）	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題5の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第15回	・実習後の学習課題（テキスト p.310）： 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。